

🐮 授精課通信 🐮

こんにちは！授精課の大原です。

最近私たちの周りでは一日に少なくとも一頭は受精卵移植(ET)をしています。それと同時に私は毎日、受精卵移植でどれだけの利益をその農家さんで生むかということをよく考えるようになりました。皆さんどんな牛にETしていますか？きっと遺伝的に残したくない牛がほとんどだと思います。その牛に和牛受精卵を移植すれば和牛が生まれ交雑種より高く売れますし、気に入った血統のホルスタイン受精卵を移植すれば自分の牛群のレベルアップにつながります。遺伝的に残したくないけど、全部ETするのは受精卵代が高すぎますよね。そこで、私なりの受卵牛の選抜方法について話そうと思います。

ボディコンディションスコア (BCS) は？

その牛のボディコンディションスコアは大丈夫ですか？やせすぎていたり、太りすぎていたりしていませんか？その場合、何らかの疾病の疑いや繁殖障害にあるかもしれません。BCSは2.75~3.5程度の牛が適切でしょう。

肢痛くない？

発情確認の際に、この牛は移植にしようと思ったら…肢をかばいながら歩いてませんか？このような牛は移植には向いていません。蹄病の可能性や肢に問題がある牛は分娩するまでに淘汰の原因にもなります。移植のコストを考えれば肢を痛そうにしている牛は避けるべきなのです。

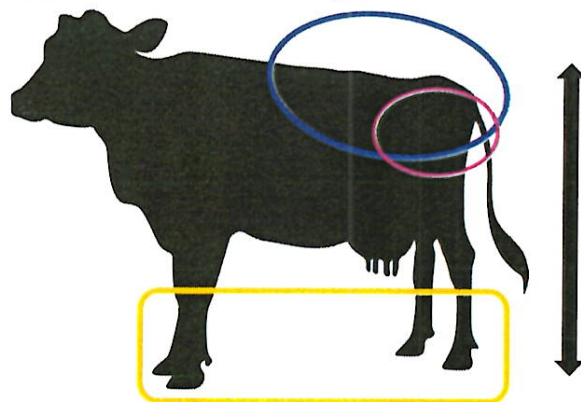
体格は？

体格は十分な大きさでしょうか。体格が小さいと分娩の際に難産の恐れがあります。和牛の方が小さいのでは？いえいえ、和牛の改良はとにかく大きい牛へと改良されています。逆にホルスタインは小さい牛へと改良が進んでいます。未経産牛に和牛の移植をするときは、体格はもちろん体高も十分にある牛が良いでしょう。

発情兆候は？

発情兆候が弱い(子宮収縮が弱い・中々排卵しない等)または、発情周期が不規則だと判断できる場合は排卵から一週間後の移植日の状態もあまり期待できないでしょう。黄体形成不全や、黄体嚢腫など、ETを中止する場合があります。ETを中止すると発情を一回飛ばすこととなります。発情兆候が弱い牛は避けた方が良いかもしれません。また、私たちはETをできないと判断した牛には台帳にその日、ETを中止したことを書き記しておきます。こうすることで誰が見ても次の発情時に授精に切り替える、黄体形成の悪い牛に移植組まないようにする、という対策ができます。また、私たちは受精卵課との連携があるので、黄体があまりよくないが、中止にするほどでもないと判断した場合、無登録の和牛卵や交雑種の卵を用意し、和牛卵より安い価格の卵で対応したりしています。

⚠️ 私のチェックポイント ⚠️



これらの条件が適切でない場合、受精卵移植をして全く受胎しないわけではありません。ですが受胎しても受精卵移植の大きなデメリットである流産や難産の問題に直面する可能性が大きくなります。だから私はこのように受卵牛を選んでいきます。うちでも受精卵移植を始めようか、と悩んでいる方は以上のようなことを踏まえて受卵牛を探してみたいはいかがでしょうか。

大原 珠丘